

ビデオ「六ヶ所再処理工場 2003」上映の呼びかけ

2004年2月

2004年4月、六ヶ所再処理工場のウラン試験を実施すると、日本原燃(株)は発表しています。昨年、核燃料プールの不正溶接が291件も発見され、6月に予定されていたのが10月に、さらに今年1月そして4月へと延期されてきたのです。

工場稼働も1年延期し2006年にしましたが、これを実現するには2004年中にはどうしてもウラン試験が必要だということで、急ピッチで工場の点検と不正溶接箇所の補修作業を敢行してきました。国の原子力保安院はその点検について検討会(「六ヶ所再処理施設総点検に関する検討会」)を設けておきながら、日本原燃が勝手に進める補修作業を許してきました。なぜこれほど多くの不正溶接が行われたのか、その原因究明も充分行われないうちに。1月25日補修作業は全て終了し、国は28日にはその合格証を交付しました。

ひとたびパイプにウランを通せば巨大な工場全体が巨大な核のゴミになってしまいます。再処理工場のパイプの長さは1500km以上。溶接部分は国の点検対象だけでも40万カ所以上。この内の少なくとも1割以上、150kmを越えるパイプに劣化ウランの溶液が流されることとなります。これが充分な品質管理のもとに作られたとは、今回の不正溶接の例を見れば誰も信じられないことです。検討会の席上でも、日本原燃の安全管理にたいする無責任体質と突貫工事のずさんさが暴露されてきました。

*青森と東京の直線距離は約600kmである。1500kmは札幌と福岡の距離である。

そもそも再処理工場は住民の生命・健康にたいして安全に動くものなのか?日本原燃が国に提出し許可をもらった申請書の安全評価は信用できるものなのか。六ヶ所村を初めとする行政責任者はそれを責任を持って見ているのか。

再処理工場はプルトニウムを作り出す為の工場です。事故を起こさなくても日常的にプルトニウムを初めとする放射能を大気と海に放出している。ひとたび事故を起こせばその被害は甚大です。

このままウラン試験をさせてはなりません。

このビデオ「六ヶ所再処理工場 2003」はウラン試験を止めさせる動きに荷担するために、急遽公表しました。再処理工場の問題を考える手がかりとして、小さな集まりや集会で活用してください。今後、刻々と変わる情勢に対応し、ビデオも内容・表現を変化させながらビデオ・ニュース的に発信していこうと思います。

KO-OK 企画

